

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970102055		
法人名	特定非営利活動法人 夢のかけはし		
事業所名	グループホームとみのくに		
所在地	奈良市中町 3857 (電話)0742-49-1392		
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成21年3月18日		

【情報提供票より】(平成 21年 3月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	18 人	常勤	4 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 12.1

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1・2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	81,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有(800,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	〇有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 2,300 円		

(4)利用者の概要(3月 10日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大倭病院、東生駒病院、高浜医院、西野歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、霊山寺に隣接した1500坪の敷地に建っている。広々とした敷地では、野菜やイチゴが作られ犬や鶏も飼われ、利用者は外に出る機会を多く持っている。運営者は地元の方で「豊かな福祉の増進とまちづくりの推進」を理念に掲げ、地元神社と協力し「秋祭り」とみのくに祭り」を行い、地域の方との交流も多くある。職員は「このホームでどう暮らしたいか?」について利用者本人や家族からの希望を把握しており、その方に合ったケアの方法や注意点などを詳しく記録しながら、「安心してその人らしく暮らしていただけるよう」日々努めている。医療面では、内科医(月2回)、歯科医(月1回)の訪問診療があり、内科医とは24時間連絡できる体制をとっている。併設のデイサービスのレクリエーションに参加したり利用者との交流することができる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回実施されていなかった運営推進会議については、年2回開催され、地域との交流に努める取り組みがなされている。「サービス内容説明書」の苦情相談窓口欄については、前回同様ホーム外の公的苦情相談窓口の電話番号が明記されておらず、追記が望まれる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が作成し、その後ユニットリーダーに意見を求めている。外部評価を行った成果としては「ケアの統一性」が成されたことを挙げられたが、職員全員の取り組みには至っていない。評価に関わることで、時間を取られることも考えられるが、年1回職員全員が日々のケアを振り返るためのよい機会と捉え、取り組みの工夫が望まれる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会役員・利用者家族が参加し、昨年2回実施された。ホームを知っていただき、地域との関わりをすすめるよい機会となっている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「サービス内容説明書」にホーム内の苦情相談窓口の電話番号・担当者名を記載している。家族の面会時には意見・相談など受けるようにしている。面会の少ない方については、電話で家族とコミュニケーションをとっている。月1回、請求書と健康状態のお知らせを家族に送付している。誕生会・花火大会・とみのくに祭りなどホームの行事案内を送り、参加を呼びかけている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、毎年秋に隣接の神社と協力して「とみのくに祭り」を行い、地域の方も大勢参加される。地元ボランティアの方が野菜作りや草取りに来てくださり、近隣の小学生の見学・中学生の職業体験などを受け入れ、ホームを知っていただくよい機会となっている。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは地域の人たちと協力し、その人らしく、誰もが安心して社会で暮らしていけるように応援します」とパンフレットに謳われており、豊かな福祉の増進とまちづくりの推進を目的とする独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・スタッフルームに掲示している。毎日の申し送りとメールで情報を共有し、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、毎年秋に「とみのくに祭り」を行い、近隣住民の方も大勢来られ地域との交流に努めている。地元ボランティアの方が草取りに来てくださり、近隣の小学生の見学・中学生の職業体験などを受け入れ、ホームを知っていただくよい機会となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し、その後ユニットリーダーに意見を求めている。成果としては「統一されたケアになった」ことが挙げられるが、職員全員の取り組みにはなっていない。	○	評価に関わることで、時間を取られることも考えられるが、年1回職員全員が日々のケアを振り返り、改善ためのよい機会ととらえ、取り組みの工夫が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会役員・利用者家族が参加し、昨年2回実施している。ホームを知っていただき、地域との関わりをすすめるよい機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者・職員は市役所窓口によく出かけ、相談・情報交換などコミュニケーションをとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求書の送付時に、健康状態のお知らせを同封し家族に報告している。また、誕生会・花火大会・とみのくに祭りなどホームの行事案内や写真などを同封することもある。今のところ家族会はない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容説明書にホーム内の苦情相談窓口の電話番号・担当者名を記載している。家族の面会時には意見・相談など受けようとしている。面会の少ない方については、電話で家族とコミュニケーションをとっている。	○	「サービス内容説明書」にホーム外の公的苦情相談窓口も記載しているが、より詳しく電話番号等明記されることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	偏った関係を作らないようにとの配慮から職員は、全利用者に関わりユニット間の異動や離職があってもダメージが少なくなるような体制をとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員にはベテラン職員2名が同行し、また介護技術をデイサービスの看護師や介護支援専門員から学ぶなど現場で学習することは多い。	○	ホーム外の研修を受けることで、職員のスキルアップや意欲向上につなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は日々の業務におわれ、外部との交流は少ない。他のホームでの音楽療法の見学したり、「とみのくに祭り」に招待したりと、管理者同士の交流はある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開始前に利用者宅を訪問し、本人・家族とよく話し合っている。入居時は、かかわった職員全員が1冊のノートに気づきや様子を書き込み、その人に合ったケアをつかめるよう工夫している。利用体験は行っていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	三味線の上手な利用者が「黒田節」など演奏され、職員も一緒になって皆で楽しんでおられた。また元自治会長として活躍された男性利用者を中心に皆さんが意見を出して旅行の計画を立てたり、にぎやかに過ごしておられた。職員の破れたエプロンを繕ってくださる利用者もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのフェイスシートがあり、「このホームでどう暮らしたいか？」について本人や家族の希望を把握している。個別のケア記録に日々の気づきや様子を記録しており、またその方に合ったケアの方法や注意点などを詳しくまとめてあり、日々のケアに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや課題が個別に具体的にあげられている。それを解決するための援助方法も日勤帯・夜勤帯に分けて詳しく記入されており、本人の暮らしを反映した介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の様子に変化があった場合は随時に見直しを行い、安定している方については6ヶ月に一度見直しを行っている。詳しく挙げられた課題について評価項目があれば、達成度が把握できなお良い。また、見直し時には本人・家族と職員の話し合いの場を設け、現状に向かい合う取り組みが大切である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ⁷ の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院送迎は、家族が行うか介護タクシーを利用するのが基本としているが、緊急時など職員が通院介助をすることもある。希望により訪問理美容サービスも利用している。デイサービスのレクリエーションに参加したり利用者 ⁸ と交流することができる。デイサービスのバスを利用して外出の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医(月2回)、歯科医(月1回)ホームのかかりつけ医の訪問診療を受けている。内科医とは、24時間対応してもらえる関係を築いている。希望により個人のかかりつけ医に受診する人もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」を作成し入居時家族に説明し、看取りが必要になった場合は、家族、かかりつけ医と相談しながら進めている。昨年 2人の方を看取った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に個人情報の取り扱いについて責任を持つよう説明している。個人ファイルや他の書類は、ロッカーに保管し管理している。職員は、丁寧な声がけを心がけ利用者に接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	デイサービスのレクリエーションに参加する人、リビングで昼寝をする人、散歩を楽しむ人と希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの「食事を楽しんでいただけることが大事」という考えから声かけと介助を中心に行っている。利用者は、配膳や下膳を手伝っている。BGMが流れる中、利用者と職員のおしゃべりが弾んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、1週間に冬は2回、夏は、3回 午後2時～4時と決めているが、希望の時間にも入られるよう努めている。季節には、菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいる。家庭用の風呂場であるが、困難な利用者には、デイサービスにあるベッド浴も利用し配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	午前中にレクリエーションタイムがあり、利用者の三味線に合わせて、童謡や民謡を歌っていた。新聞取りや洗濯物干しやゴミすて、食事の配膳、後片付けと持てる力を発揮している。花見や散歩、庭のさくらんぼやイチゴ摘みを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	靴が欲しいという利用者と買い物にスーパーまで出かけたり、近くの霊山寺を通りお地藏様のお参りをするコースを決め散歩を日課にしている。畑もあり、広い庭で犬や烏骨鶏を飼っており、常に外気に触れる機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口には鍵を掛けず、開閉時に鳴るアラームとミラーを入り口や廊下が見渡せる位置に取り付け、職員が利用者の様子を察知し声掛けできるよう工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器を設置しており、緊急連絡先も目のつく場所に貼られている。スプリンクラー設置についても検討中である。避難訓練のシュミレーションを年2回行っている。災害時は、近隣に住む施設長や、管理者が駆けつける体制を作っている。今後は、夜間の避難訓練の実施、飲料水や保存食等の備蓄が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、個人ファイルに記録している。朝・昼食はシルバーメニュー用材料を業者から購入し、夕食は調理済みの料理を業者から取り寄せている。品数も多く栄養のバランスも良い。利用者の嚥下の状態に応じとろみ、刻み食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の天井は高い吹き抜けになっており明るく、居室の窓からの眺望もよく季節を感じられる。リビングには、季節の花が生けられ乾燥を防ぐために加湿器が備えられている。トイレの戸は、以前引き戸であったが、利用者が開閉時に転倒しないようカーテンに変えられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きめのクローゼットと電動ベッドが備え付けられ、利用者の持ち込んだテレビや引き出し、家族写真などが置かれシンプルにまとめられている。窓からの眺望もよく季節を感じられる。利用者の生活歴に合わせて布団を敷いて休んでいる方もいる。		